

秋の叙勲 旭日小綬章

ともひろ
友廣 郁洋さん

(志佐・長野、77)



平成18年2月、合併後の初代松浦市長に就任し、3期12年の永きに亘り、卓抜なる識見と豊富な経験により地方自治の発展に寄与されました。
市勢発展のためには、持続的な産業振興と基盤確立が不可欠との信念から、着実な行財政改革のもと、松浦魚市場の再整備、母牛増頭事業、九州電力松浦発電所2号機建設の再開、西九州自動車道の整備促進、多様性のある企業誘致などに取り組まれました。また、合併後の市民の一体感の醸成と定住・交流人口拡大や子育て支援などの政策推進、本市医療の中核を担う公的医療機関の誘致、市民福祉総合プラザ(仮称)の着工も果たされました。

秋の叙勲 瑞宝双光章

やまぐち
山口 叶さん

(福島・日の浦、83)



昭和30年に福島町役場へ奉職以来、土木行政を専門として町民の安全な暮らしの確保に努められました。昭和62年からは、3期12年の永きに亘り、福島町助役として町長を補佐し、職員の指揮、監督に精励されました。
財政健全化が求められる苦境の中、LPG国家備蓄基地の誘致をはじめ、優良系統牛の導入、クルマエビ養殖場の整備等、将来を見据えた産業振興に尽力し、町勢発展に貢献されました。また、温厚質実、清廉潔白な人柄で、社会福祉法人福島町社会福祉協議会会長として、社会福祉活動の活性化、地域福祉の推進にも寄与されました。

秋の叙勲 瑞宝単光章

いけだ
池田 稔さん

(志佐・庄野、65)



昭和54年に松浦市消防団に入団以来、36年の永きに亘り、消防防災活動の最前線において活躍されるとともに、消防業務に精通し、団務の向上に努められました。
市町村合併時には、消防団の組織・運営の合理化等が求められる中、副団長として団長を補佐し、新たな松浦市消防団の発足とその運営に大きく貢献されました。また、松浦市消防団長に就任以降も、常に緊張感を持って火災予防の推進に努め、消防団幹部としての崇高な精神と堅実な行動で、消防団員として目指すべき姿を自ら示し、消防団の組織強化、団員育成に大きく寄与されました。

秋の叙勲 瑞宝単光章

よしだ
吉田 真由美さん

(志佐・辻ノ尾、62)



昭和52年に志佐保育園(社会福祉法人和光福祉会)に保育士として採用されて以来、40年の永きに亘り、園児の健全育成や在園児家庭への支援に情熱と英知を傾け、現在も家庭福祉の向上のため、献身的な保育活動に取り組まれています。
平成9年4月からは、地域子育て支援センター事業の指導員として、これまで培った経験や知識をもとに、子育て家庭の支援に努められています。また、平成10年4月には主任保育士に任命され、保育のリーダーとして保護者への支援をはじめ、保育士などの指導育成に貢献されています。

受賞おめでと

第58回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞

《水産部門》 日本遠洋旋網漁業協同組合 “松浦港の海鮮丼ぶりセット”

日本遠洋旋網漁業協同組合（加藤 久雄代表理事組合長）が11月14日、「令和元年度（第58回）農林水産祭」において内閣総理大臣賞を受賞しました。

この賞は、農林水産業と食に対する認識を深め、農林水産業者の技術・経営改善の意欲を高めるために実施されており、受賞した「松浦港の海鮮丼ぶりセット」は、全国466点の中から選出されました。昨年の第56回長崎県水産加工振興祭水産製品品評会でも農林水産大臣賞を受賞しており、ふるさと納税でも人気のある商品です。

同品は、「旬さば」、「天然あじ」、「天然ぶり」を醤油ベースの胡麻だれに漬けたもので、徹底した衛生管理のもと、「全国有数の水揚げを誇るアジ・サバ等を新鮮なまま、手軽に消費者へ届けたい」という思いから、「漬け丼」をヒントに昔ながらの味付けで製造され、優れた水産製品として高く評価されました。



▲賞状を持つ久保川部長、楯を持つ谷川工場長



令和元年度ながさき農林業大賞（長崎県知事賞）受賞

《トップファーマー（畜産部門）》 稲本俊郎さん、稲本侑紀さん

前列右から3番目が俊郎さん、2番目が侑紀さん▼

鷹島町で畜産業を親子で経営する稲本俊郎さん、侑紀さんが11月9日、ながさき農林業大賞（トップファーマー（畜産部門））を受賞しました。

この賞は、食の安全・安心や環境に配慮し、技術・経営がトップクラスにある認定農業者を表彰するものです。

俊郎さんは昭和49年に就農。長年にわたり肉用牛繁殖経営と葉たばこの栽培に携わり地域内における複合経営の先駆けとなられ、長崎県指導農業士として後継者の育成にも尽力されています。

侑紀さんは平成27年に就農。30頭規模から60頭規模を目標とした繁殖牛舎を建設して着実に規模拡大を図られ、営農指導員の経験を活かした飼養管理技術やAI等の最先端技術の活用により、全国平均を大きく短縮する分娩間隔342日を実現されました。



令和元年度ながさき水産業大賞（特別賞）受賞

《魅力ある経営体部門 技術・担い手の部》 有限会社 辻川水産

有限会社辻川水産（辻川吉規代表取締役）が11月9日、「令和元年度ながさき水産業大賞」において特別賞を受賞しました。

この賞は、地域の特色を活かした先進的な活動を展開し、成果を上げている漁業者や組織を表彰するものです。

同社は、マグロ、マダイ養殖のほか、独自にギンザケの養殖試験など、養殖の多様化に取り組んでおり、マグロは、「拓海のトロ一番」、マダイは、「拓海の茜鯛」としてブランド化にも成功し、長崎県かん水養殖品評会マダイ部門で最優秀賞を受賞するなど、高い養殖技術が評価されました。

また、大阪からのIターン者を漁業就業実践研修生として受け入れ、地域漁業の担い手育成にも貢献していることなどが高く評価されました。



▲右から2番目が辻川さん